

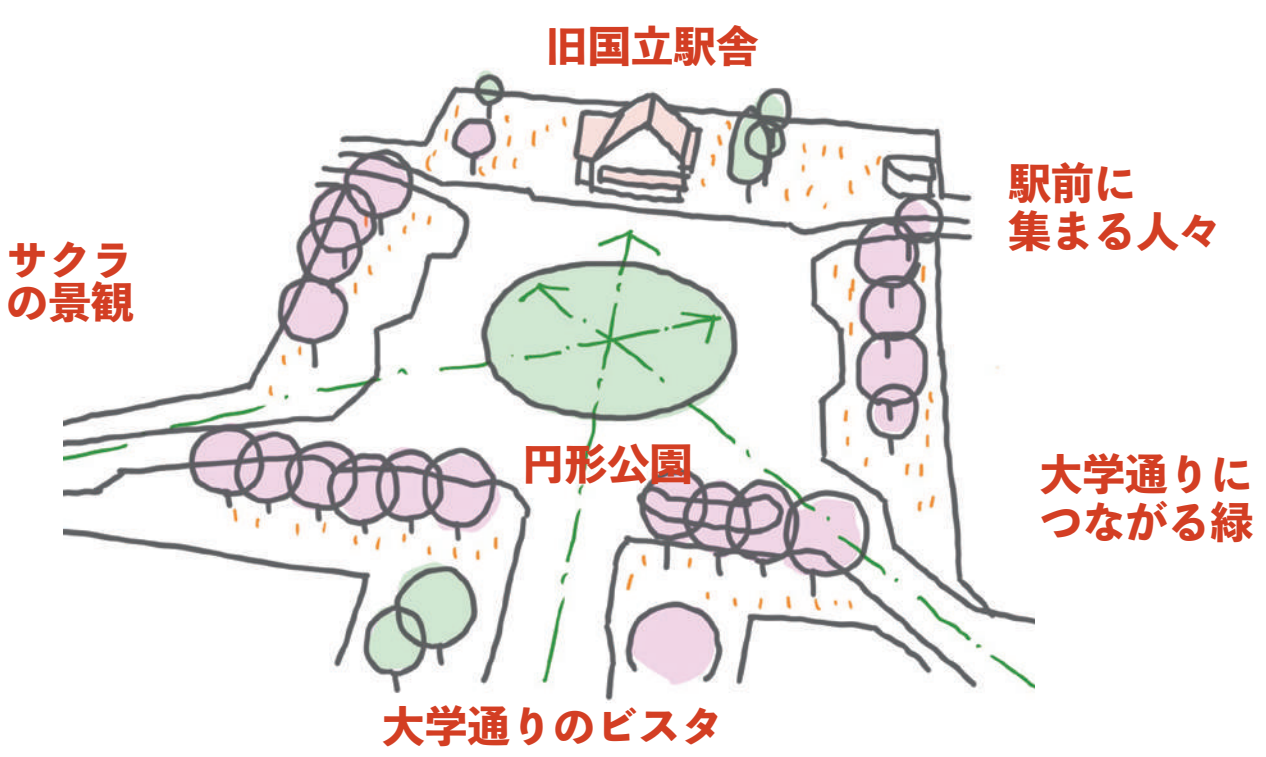
# 各施設のデザインイメージ

各施設に共通する考え方

1 シンプルで、機能的に

各施設の形

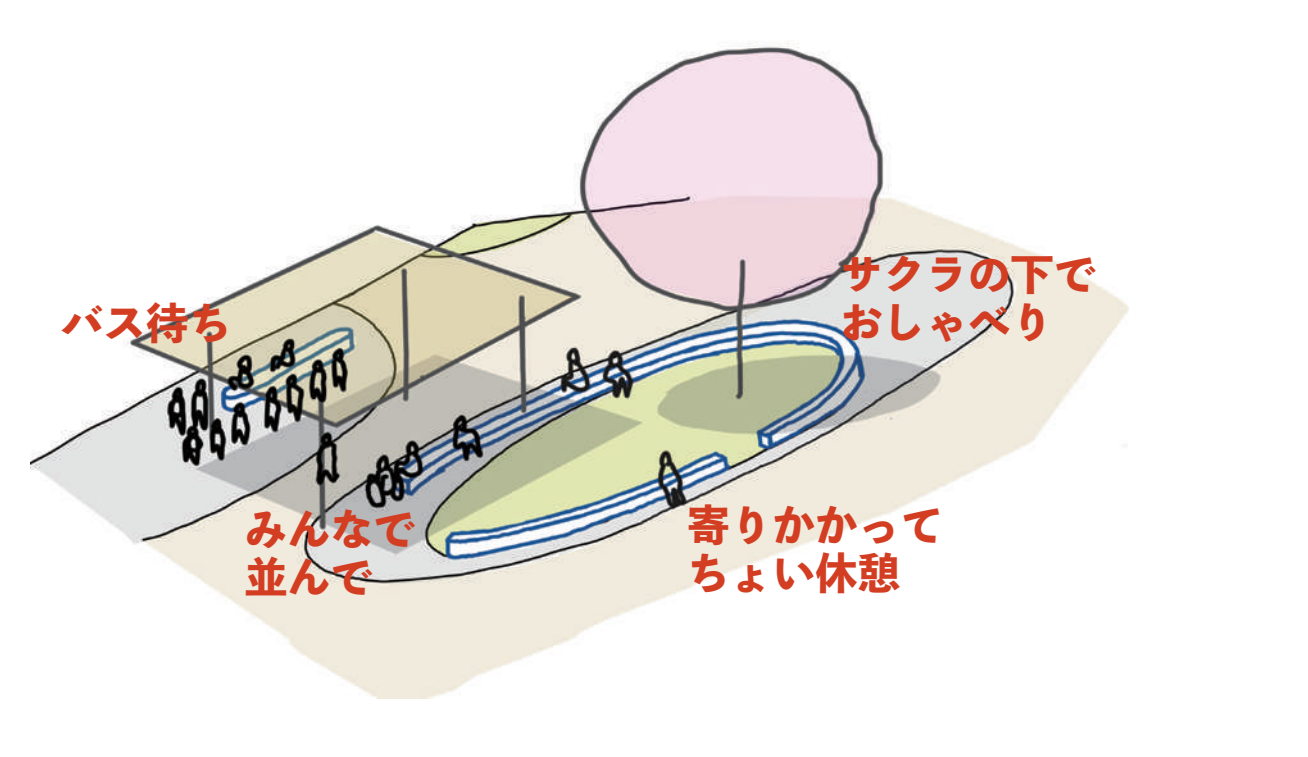
・主役を引き立てる  
・各施設の形は機能に即してシンプルに



2 多様な場所が、一つの空間に

各施設の組合せ

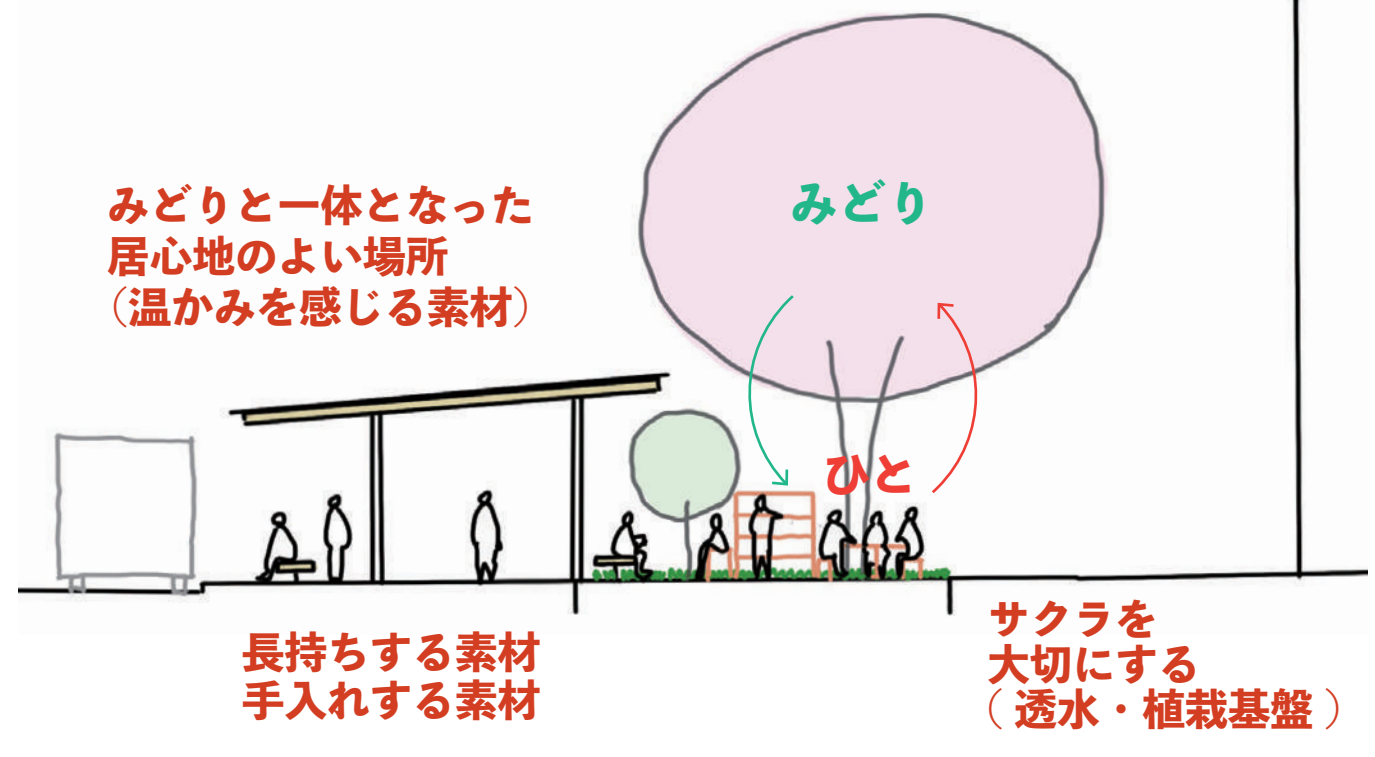
・シンプルな形の施設を組合せて多様な空間に  
・みんなで共有（一つ屋根の下、一つのベンチ）



3 循環しながら、持続可能に

各施設の素材

・美しく、長持ちする  
・みどりと人の良い循環（互いに支え合う）

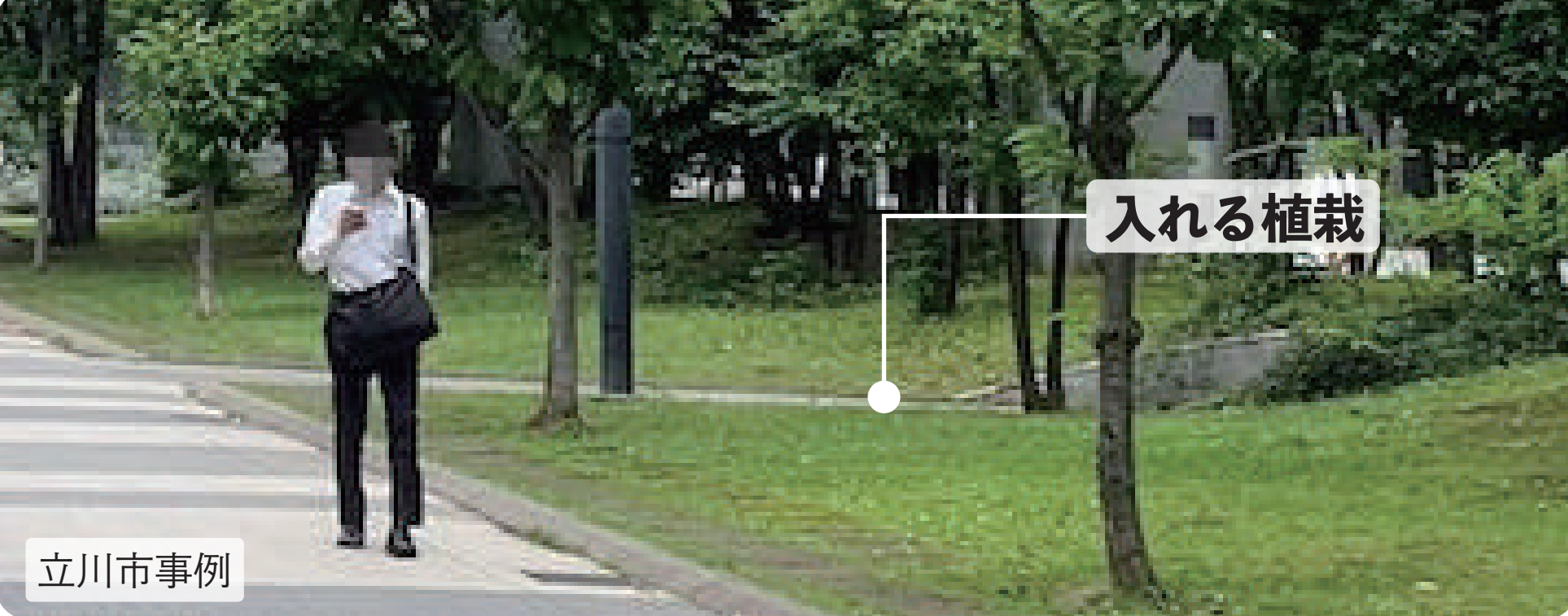


植栽

・既存のサクラをできるだけ長生きさせるようにします。具体的にはサクラの植栽帯の範囲を広げ、生育環境を改善します。また人が立ち入れるエリアと立ち入りを抑制するエリアを分け、サクラの根を守ります。  
・新しく植える樹木については、効果的に緑を感じられ、日陰を生み出す植栽配置とします。  
・樹種については、武蔵野の風土にあったものを選定し、高木、中木、低木、地被類をバランスよく配置します。  
・部分的に雨水が地下に貯留浸透できるような植栽帯（アメニフ）を設けます。  
・効果的に緑が感じられるよう、一部に可動式植栽を設けます。植栽の周りに人の居場所ができるものとし

「入れる植栽」

・植栽地を広げた箇所には、部分的に人が立ち入ることができるように地被類を植えます。



立川市事例

「入れない植栽」

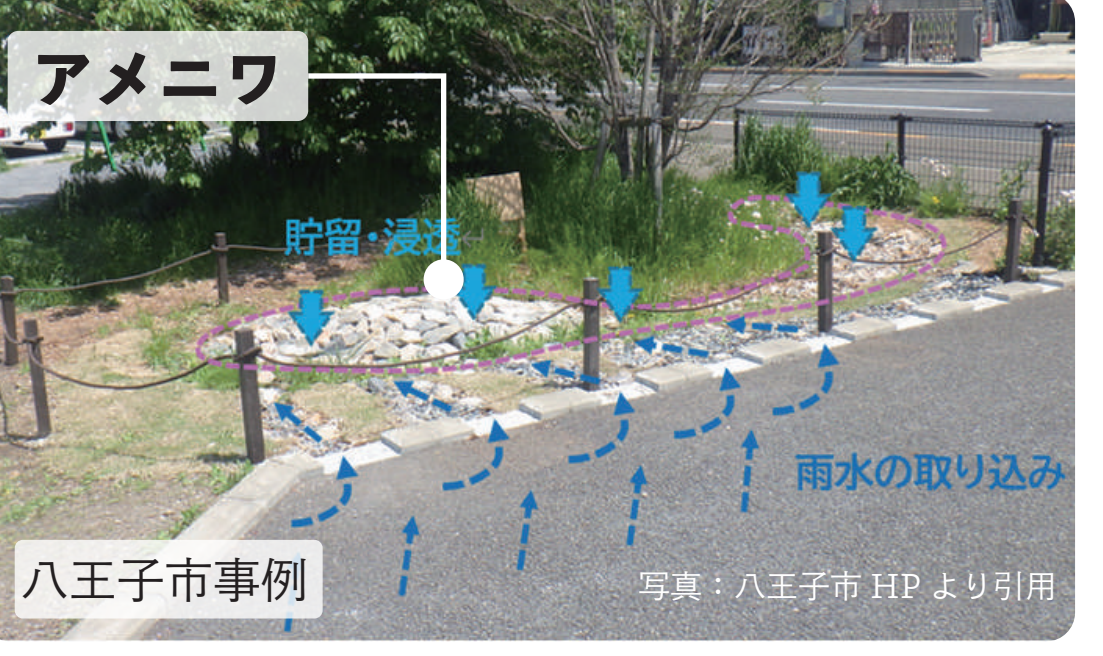
・低木などを植えて、人の立ち入りを抑制し、樹木の根を守ります。



立川市事例

「アメニフ」

・貯留浸透機能のある植栽地を設けます。  
・水に強い植栽を選びます。



八王子市事例

「可動式植栽」

・効果的に緑を感じられるようにします。  
・可動式植栽の周りにベンチを設けます。



渋谷区事例

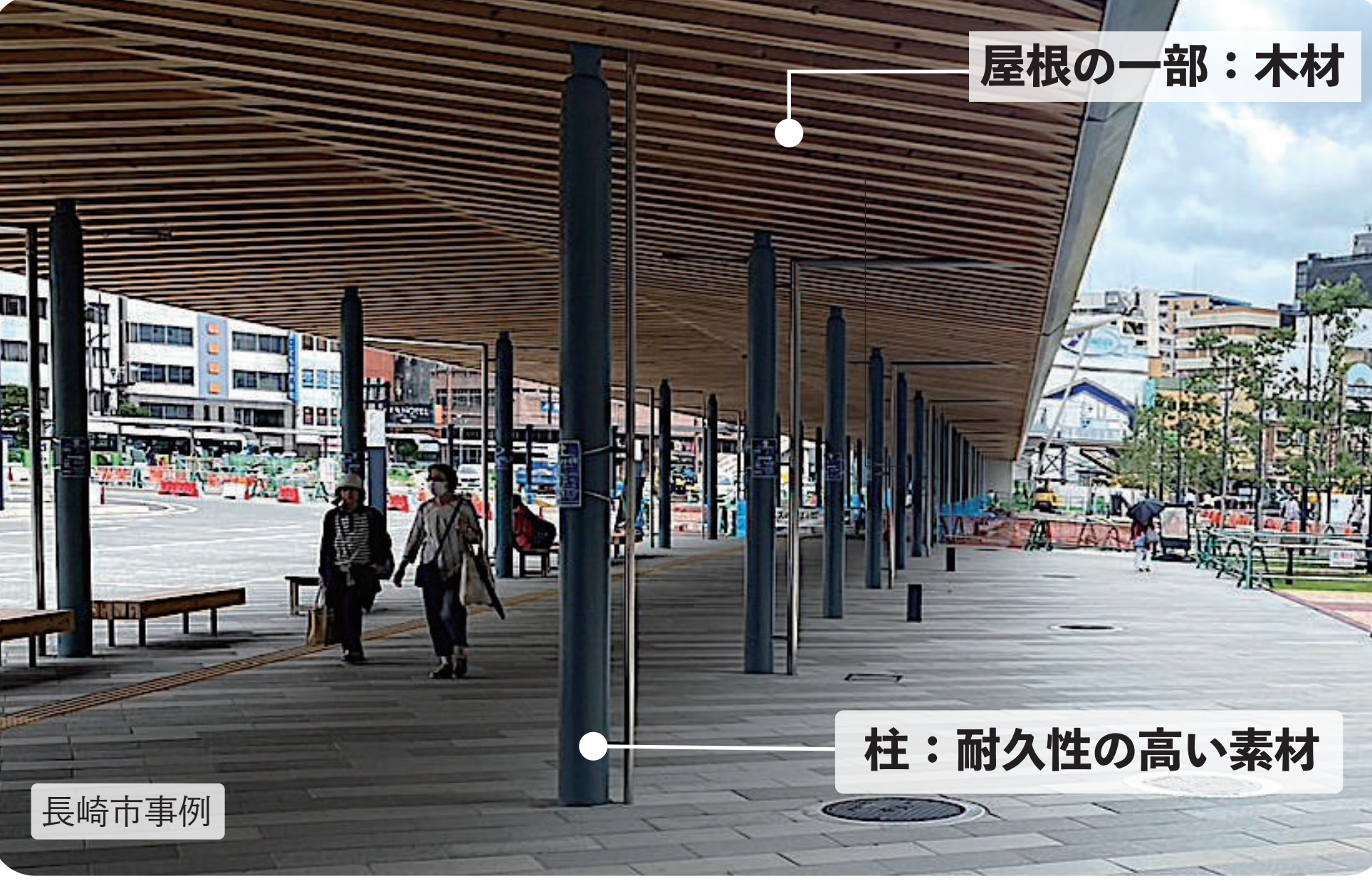
「樹木保護板」

・樹木の際まで歩けるようにします。



千代田区事例

上家



屋根の一部：木材

柱：耐久性の高い素材

・公共交通の乗降場の前に配置し、シンプルな形状とします。  
・旧国立駅舎の三角屋根を引き立てるために、水平を基調とした立面形とします。  
・大学通りとつながるみどりと人の空間を作るために、温かみを感じられる木材を利用します。木材を使うことでCO2削減にもつながります。  
・長持ちする素材を適材適所に用います。具体的には雨がかかる屋根上面や柱には耐久性の高い素材を用い、雨がかからない屋根の内側には木材を用います。  
・上家の柱や屋根材の色彩は、旧国立駅舎や緑を引き立てる色とします。具体的な色は「国立市景観づくりガイドライン」に準拠します。

「上家」

・バスやタクシーなどの乗降場の前に設置します。  
・雨がかかる屋根上面や柱は耐久性の高い素材を用います。  
・雨がかからない屋根の内側には温かみを感じる木材を用います。  
※構造や素材については、今後関係者協議を進める中で、変更する場合があります。

円形公園

「時計塔・文教地区サイン・国旗掲揚塔」

・時計塔・文教地区サイン・国旗掲揚塔は円形公園の中に残します。

「景石」

・円形公園内にある景石は残しますが間引くことや移設することも検討します。



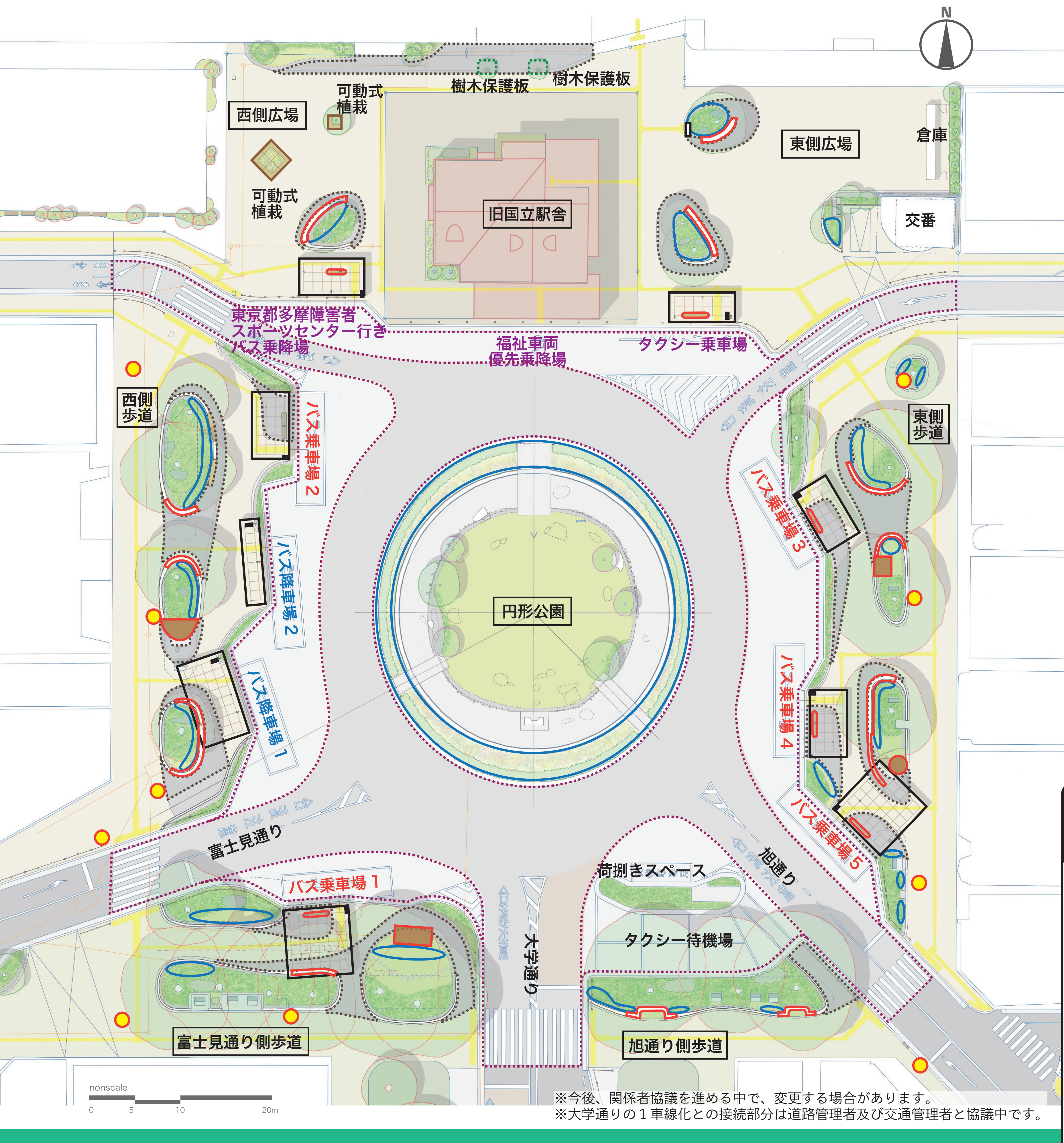
日向市事例

「ウメの木」

・円形公園のウメの木は移植も検討します。

「水環境」

・降雨時に一時的に雨水が溜まる環境を検討します。



照明

・旧国立駅舎のライトアップを引き立てるような照明計画とします。具体的には、新設照明はシンプルな形状のものとし、必要な場所に必要な明るさを確保します。  
・既存の商店会街路灯は可能な限り再利用します。  
・上家の下はほんのりと明るくし、温かみを感じられるようにするとともに、時刻表などを確認するのに必要な明るさを確保します。  
・街路空間を美しく見せる演出照明（フットライトなど）も配置します。  
・明かりの色を電球色に統一し、駅前広場全体で温かみを感じられる夜間景観とします。  
・新しく設置する街路灯本体の色は、主役である旧国立駅舎や植栽の緑を引き立てる色とします。具体的な色は「国立市景観づくりガイドライン」に準拠し、サインや柵の色などと合わせます。

「上家の照明」

・時刻表などが見えるよう、上家の下はほんのりと明るくし、温かみを感じる空間とします。



上家照明

「フットライト」(設置箇所検討中)

・ベンチ下の間接照明により夜間景観を演出します。



フットライト (間接照明)

富山市事例

「既設商店会街路灯」

・既設の商店会街路灯を活用します。



商店会街路灯 (西側)

現況



商店会街路灯 (東側)

現況

「車道灯」(設置箇所検討中)

・シンプルな形状の道路照明を用い、明かりは温かみを感じる色とします。



車道灯

国立市内

ベンチ・サイン等

・個々の施設は形や素材の種類を絞り、シンプルなデザインとします。シンプルな形の施設の組み合わせや複数の機能を兼ねることによって多様な空間が生まれるようにします。  
・ユニバーサルデザインの考え方に基いたデザインとします。具体的には、視覚にしょうがいのある方が使いやすい点字誘導ブロック、車椅子やベビーカー利用者が同伴者と並んで座れるベンチを配置します。  
・一つの施設を、多くの人が共有できるデザインとします。具体的には、多くの人が同時に座れるベンチなどを配置します。  
・長持ちする素材を適材適所に用い、使用する場所に応じて耐久性の高い素材や温かみを感じられる木材を用います。  
・個々のベンチ・サイン等の色彩は、旧国立駅舎や緑を引き立てる色とします。具体的な色は「国立市景観づくりガイドライン」に準拠します。

「ベンチ・緑台」

ベンチ

緑台ほか

・土留めや緑石などとベンチを兼用します。  
・耐久性が高く、肌触りが良い素材を用います。  
・広場全体が明るくなる色とします。  
・背もたれ付きや上にあがって座れる緑台など様々な使い方に対応できるように検討します。  
・車椅子やベビーカー利用者と同伴者が横に並んで座れる場所を設けます。



緑石と兼用したベンチ

甘日市事例

「サイン」

・耐久性の高い素材のサインとします。  
・色は旧国立駅舎や周囲の緑を引き立てる色とします。



上にあがって座れる緑台

渋谷区事例



牛久市事例

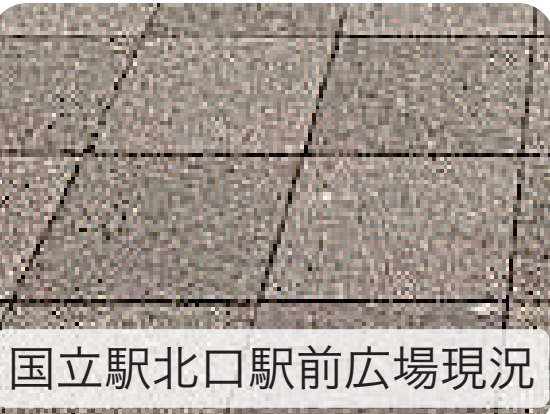
舗装

・機能に合わせて素材を使い分け、視覚的に区分します。具体的には、車道では走行車線と停車帯、歩道では動線部分と滞留部分を区分します。  
・舗装の色彩は、広場全体が明るく温かみを感じるような色の素材を用います。具体的な色は「国立市景観づくりガイドライン」に準拠します。  
・車道は、耐久性が高い素材を用います。歩道は、既存樹木の生育環境に貢献する透水性性能を持った素材を用います。  
・シンプルなデザインとなるよう、舗装材の種類を絞ります。一方で、その組み合わせ方によって、多様な空間を生むようにします。

「歩道（動線部分）」

透水性ブロック舗装

・耐久性が高く維持管理がしやすい舗装とします。  
・色は明るい舗装材を想定します。



国立駅北口駅前広場現況

「歩道（滞留部分）」

透水性ブロック舗装（小サイズ）

・小サイズのブロックを用いて目地を増やし、透水量を増やします。  
・色は明るく、歩きやすさなどユニバーサルデザインに配慮した素材とします。



大阪市事例

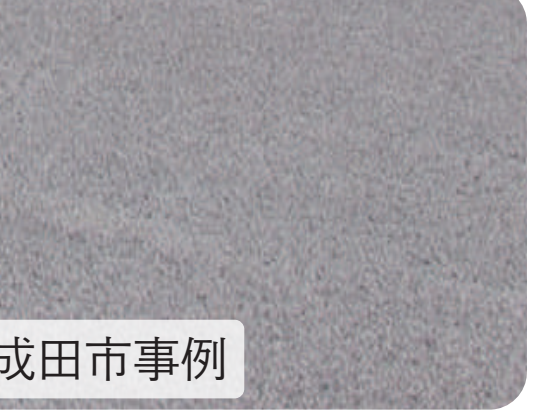
「車道（車線・停車帯）」

半たわみ性舗装

車線

停車帯

・強度が高く、耐久性が高い舗装とします。  
・広場全体が明るくなるよう、ライトグレー系の色を想定します。  
・色を調整して、走行車線と停車帯を視覚的に区分します。



成田市事例